



学校だより

平成 29 年度 12 月号
平成 29 年 12 月 1 日
さいたま市立大谷口中学校

【学校教育目標】 かしこく 美しく たくましく

「池上彰氏から学んだこと」

～文武両道の大谷ロブランドをつくろう！～

校長 汐満 猛

関東では、11月中旬から12月上旬までが紅葉が見ごろなので、12月中旬から一気に冬への様相を呈すこととなります。3年生にとって12月は、進路決定の最終段階かと思えます。校長・教頭・教務主任で面接練習をしましたが、実力テストや定期テストの結果に悲喜こもごも様子がうかがえました。悩むこと、希望校を簡単に諦めないこと、そして、面接の場でわからないことが聞けるというのは、そのこと自体が大変優秀だと思います。やる気を感じる3年生に心からエールを送ります。

さて、今月号のテーマは表題にあるように池上彰氏の特集記事「中学校教育に望むこと」を読んだ感想です。私が、池上彰氏から学んだことは、人生に必要なことは中学校教育にあるということでした。以下、抜粋記事です。

「先ずOECDやPIISAのテストで学力の問題が話題になるが、上位にいるフィンランドは人口500万の国であり、シンガポールも香港も人口が少ない。中国も上海の都市部だけが調査対象であり、中国の全人口で調査すればレベルは低くなる。数字のマジックを見抜いて考えると日本は決してレベル的に低くない。国内で共通で均一な教育を受けられる大変優秀な国である。

次に、リベラル教育の必要性です。アメリカの名門であるハーバードやスタンフォードの大学の最初の4年間はみんなリベラルアーツです。(リベラルアーツとは、人間性を豊かにはぐくむ幅広い知識や物事を深く専門的に追求する上で土台となる基礎的学問の総体、あるいはそれを身につけるための教育手法を指す言葉です。日本語では、一般教養と訳されます。リベラルアーツの原義は“人を自由にする学問”。) 中学校では、美術・音楽・体育を指します。中国やイスラム圏だと教科として教わらない。日本でも、昔は都立高校の受験科目は9教科だった。基礎的なものを幅広く学んだことが今に生きている。私は、ある部分では、中学校までの教育で仕事をしている。例えば、憲法を改正するには、衆議院と参議院の三分の二以上の賛成で発議し、国民投票で過半数が必要であるというのは、中学校3年生の公民の教科書に載っている。それをテレビで紹介しただけで、教養人として尊敬され認めてもらえる。英語に至っては、教科書を声に出して読んで単語さえ覚えれば中学校3年生までの内容で十分だと思うのです。」

皆さんどうですか。記事のほんの一部ですが、学力結果を統計の方法で分析すると全く違う結果になることや、中学校教育における9教科の重要性と学んだことが即、社会人としての基礎になる憲法の理解、実用英語に関する事等、学校・家庭・地域で活かしていきたい内容でした。

保護者の皆様、三者面談も終了し、いよいよ師走です。生徒諸君にとって、3学期はまとめの学期であり、お別れの学期です。1日々々を大切にかみしめて生活して欲しいと願います。体調管理をしっかりして終業式を迎えましょう。

地域の皆様にも重ねて、残り少ない平成29年ですが、子どもの見守り等よろしく願いいたします。

